

令和5年度

第8回大分県教育委員会 議事録

日 時 令和5年7月7日(金)
開会13時35分 閉会14時38分

場 所 教育委員室

令和5年度
第8回大分県教育委員会

【議 事】

(1) 議 案

第1号議案 大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について

(2) 報 告

① 令和6年度県立高校入試変更点について

② 国東高校SPACEコースについて

③ 令和5年安全功労者内閣総理大臣表彰の受賞について

(3) 協 議

① 令和6年度海事職採用選考について

【内 容】

1 出席者

教育長	岡 本 天津男
委 員 委 員 (教育長職務代理者)	林 浩 昭
委 員	岩 崎 哲 朗
委 員	高 橋 幹 雄
委 員	高 鈴 木 恵 代
委 員	岩 武 茂 代
事務局 理事兼教育次長	渡 辺 登
教育次長	三 浦 一 雄
教育次長	武 野 太
教育改革・企画課長	重 親 龍 志
教育人事課長	吉 雄 幸 平
学校安全・安心支援課長	前 田 英 明
高校教育課長	山 田 誠 司
教育改革・企画課 総務企画監	小 野 裕 二
教育改革・企画課 課長補佐 (総括)	新 貝 隆
教育改革・企画課 主査	長 山 佳 史
教育改革・企画課 主任	久 知 良 周 平

2 傍聴人

11 名

開会・点呼

(岡本教育長)

委員の出席確認をいたします。

本日は、全委員が出席です。

それでは、ただ今から、令和5年度第8回教育委員会会議を開催します。

署名委員指名

(岡本教育長)

本日の議事録の署名については、林委員にお願いします。

会期の決定

(岡本教育長)

本日の会議はお手元の次第のとおりです。会議の終了は14時20分を予定していますので、よろしくをお願いします。

議 事

(岡本教育長)

会議は原則として公開することとなっておりますが、第1号議案及び協議第1号は、人事に関する案件ですので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項ただし書の規定により、これを公開しないことについて、委員の皆さんにお諮りいたします。

賛成の委員は挙手をお願いします。

(採 決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案及び協議第1号は、非公開といたします。

(岡本教育長)

本日の議事進行は、始めに公開による議事を行い、次に非公開による議事を行います。

【報 告】

① 令和6年度県立高校入試変更点について

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第1号「令和6年度県立高校入試変更点について」高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

令和6年度の大分県立高等学校入学者選抜制度の県外隣接地域からの志願の変更について、報告します。

資料「令和6年度大分県立高等学校入学者選抜制度の変更について」をご覧ください。

従来、県外の中学校から県内の高校を受験する場合、入学志願許可の手続きを経て、受験するという形をとっています。ただし、資料の上段に記載している、福岡県の3中学校、熊本県の6中学校については、県外隣接地域であることから、入学志願許可の手続きを必要とせず、中津・日田・竹田地域にある高校への入学を認めています。この度、日田市内の3つの高校（日田高校、日田林工高校、日田三隈高校）に許容する中学校として、福岡県うきは市立浮羽中学校と福岡県うきは市立吉井中学校の2校を加えます。これまでも、この2校から日田市内の高校への志願許可申請が一定数あり、入学の状況があることと、うきは市内から公共交通機関での通学が容易であることが理由として挙げられます。令和5年度入試の日田市内の高校の欠員数や、中津市、竹田市の入学許可人数の割合を鑑み、福岡県うきは市立中学校から日田市内の高校への入学を許可する人数は、各学校の入学定員の5.0%程度とします。

報告は以上です。

(岡本教育長)

ご質問、ご意見はありませんか。

(林委員)

浮羽中学校や吉井中学校の生徒が受験するように、日田市内の高校が積極的にPR活動をするのですか。それとも、入学したい人を受け入れるということですか。

(山田高校教育課長)

県外隣接中学校になるので、3校ともおそらくPR活動をすることになると思います。

(岩崎委員)

隣接地域である福岡県の中学校の生徒にとっては、非常に受験しやすくなり良い制度変更だと思います。ところで、受け入れ側の高校に他県から5%程度の志願者が入学してきた場合、県内の中学生の進学に何らかの影響があるかどうかを教えてください。

(山田高校教育課長)

最も懸念されることとしては、日田市内の従来の進学者を圧迫しないかということですが、ここ数年間の欠員状況などを鑑みても、課題はないと考えています。

② 国東高校SPACEコースについて

(2課〔教育改革・企画課、高校教育課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第2号「国東高校SPACEコースについて」高校教育課長から説明をしてください。

(山田高校教育課長)

最初にプロモーション動画をご覧ください。

(動画視聴)

ご覧いただいたように、令和6年度入学生を対象としたSPACEコースを新たに設置します。国東高校の小田雅彦校長より説明してもらいます。

(小田校長〔国東高等学校〕)

資料1 ページ中段をご覧ください。

「SPACE」は、「STEAM」「PASSION(情熱)」「ACTION(行動)」「COURAGE(勇氣)」「ENGINE(原動力)」の頭文字を取っています。来年度開設するSPACEコースでは、これらを中心に据え、宇宙をテーマに新たな学びを展開していきたいと考えています。

具体的には、2ページの中程の図に示しているように、1年次に普通科進学コースに所属している生徒が、2年次よりSPACEコースとドリカムコースに分かれ、SPACEコースの生徒は2年次と3年次で宇宙に関する学びを深めていきます。当然、普通科の必修科目はしっかりと学び、学力を身につけます。その上で、宇宙に関する学びを通して、知識だけではなく課題発見力や探究力を身につけ、大学入試においては総合型選抜等で国公立大学等への進学を目指していきます。宇宙というと、いわゆる理系のイメージがあるかもしれませんが、宇宙

産業は経済や流通、文化、法律といった、いわゆる文系の学問も関わる裾野の広い分野です。生徒の多様な進路希望に対応し、あらゆる学部系統への進学を可能にするためにも、SPACEコースでは教科横断的な幅広い学びを展開していきます。そして、2ページ下段に示しているとおおり、宇宙視点で地球の課題に向き合い、リーダーとなる人材の育成に努めていきます。

続いて3ページをご覧ください。「宇宙×新たな学び」として、3つの柱を示しています。

1つは、探究学習です。1年次は総合的な探究の時間を「宇宙STEAM探究」として実施します。これは宇宙を「学ぶ」のではなく、「題材」として地球課題解決に向けた探究活動を行うものです。今年度から先行して実施をしており、今年度の1年生は、月での生活をイメージし、食をテーマにした探究活動を実施します。2年次よりSPACEコースとドリカムコースに分かれ、SPACEコースの生徒は2、3年次に「SPACE探究」として、人工衛星のデータを活用して地球課題の解決を図る探究活動を実施する予定です。

2つは、総合選択制という本校の強みを活かした「総合選択科目」です。3ページ中段に示しているとおおり、「SPACE Science」として①宇宙観光商品化②宇宙栽培植物③SPECCE土木④宇宙技術開発の4つの科目を、関係するコースや専門科がそれぞれ主体となって開設しますが、これらの科目はすべての学科・コースの生徒が選択して学ぶことができます。

3つは、「学校設定科目」です。SPECCEコースの生徒は、3年次に数学、理科、英語において、宇宙を切り口とした7つの学校設定科目の中から最大4つを選択し、例えば「SPECCE物理」など、宇宙に関する学びを深めることができます。

これら3つの学びの柱によって、SPECCEコースの生徒は宇宙関連学習を3年間で最大で14単位、授業時間にして490時間学ぶことができます。

最後に、国際交流も進めていきたいと考えています。イギリスのリチャード・ランダー・スクールとは、昨年度からオンラインで交流を開始しておりますが、今後は宇宙を題材にした地球課題への取組などで、相互交流を深め、世界に羽ばたく人材の育成も目指していきたいと考えています。

報告は以上です。

(岡本教育長)

ご質問、ご意見はありませんか。

(林委員)

宇宙というテーマは、国東市の宇宙港の話が関係していると思いますが、国東半島という地域が、昔から日本全体や世界、或いは宇宙に目を向けた地域であるという原点が大事だと思います。宇宙港の実現が少し厳しくなった状況で、なぜ宇宙の学びをするのかという人もいるかもしれませんが、そうではないと思います。

国東半島は昔から交通の要衝であり、三浦梅園先生が宇宙に目を向けた学問を行った地域です。そのような大事な精神についての議論はされたのですか。

(小田校長 [国東高等学校])

国東出身の三浦梅園先生のような考え方もしっかり学ばなければならないと思います。先日、日本文理大学の永田教授に講義に来ていただいた際も、三浦梅園先生に関する話を取り入れてもらい、生徒にはその精神も学んでいきたいと思います。

(林委員)

地域、日本、世界のリーダーとなるような人材育成をぜひ行っていただきたいと思います。地域のことだけでなく、世界のこと、そして宇宙のことが分かる人材はとても貴重です。

宇宙の学びを大学進学につなげていくということですが、どのような大学や学部系統を考えていますか。

(小田校長 [国東高等学校])

宇宙というと理系のイメージが強いのですが、宇宙コースは文系・理系どちらも含めた幅広い学びを考えています。また、大学進学については、特に総合型選抜を利用し、文系・理系のどちらでも進学できるような進路指導を考えています。

(林委員)

先日、早稲田大学の教授と話をする機会がありました。その教授は、早稲田大学には東京の生徒だけでなく、地方出身の生徒に入学してもらいたいと言っていました。もちろん、ある程度の学力は必要ですが、その上で、国東高校のような取組をしている高校で教育を受けた生徒に、ぜひ来てもらいたいということでした。

大学が、現在どのような人材を必要としているかを調べて、どのような学習をすれば、その大学に行けるようになるかといった情報もふまえて、生徒を指導してほしいと思います。

よろしく申し上げます。

(高橋委員)

とても面白い取組だと思います。プロモーションビデオを見て、非常に興味を持ちました。林委員の話にもあったように、サイエンスだけではなく、6次産業など様々なことと絡めてほしいと思います。例えば、宇宙にはどのような食料を持って行くことができるのかといったような研究をしてほしいです。保存食などの研究をしている企業は必ずありますので、そのような企業とも連携をして、新たな発信力にしてほしいと思います。総合型選抜に向けてどのような研究をしていくかということだけでなく、国東で育んだ物産の技術をいずれ宇宙に持って行

ってもらいたいので、そのような研究をしてほしいと思います。

また、三浦梅園先生の話が出ましたが、国東は宇宙と密接した地域です。麻田剛立先生も宇宙のことを研究していますので、そのような歴史についても、もう少し深掘りしてほしいと思います。よろしくお願いします。

(鈴木委員)

内容は非常に良いと思います。ただ、この内容を教える教員は大変だろうと思います。全てにおいて宇宙と関連付けることは、これまで実績がないと思いますし、外部の教員や大学教授を多く招くことも難しいと思います。十分に宇宙関連のことを学べず、中途半端になることがないように、しっかりと進めてほしいと思います。

それと、少し細かいのですが、国東高校の国東という字をアルファベットで表記するのが少し残念です。読みにくいので、敢えてアルファベット表記にしているのかもしれませんが、せっかく国東という素晴らしい漢字があるので、漢字に仮名を振るとか、アルファベットでルビを振るといった表記の方が良いのではないかと思います。国東高校は伝統があるので、その印象が大きく変わってしまうのは残念だと思いました。

(岩武委員)

これから頑張ってもらいたいと思っています。

SPACEコースの生徒は2年次から宇宙に関連することを学んだり、研究したりして、その先の進路を考えた時に、そのまま宇宙の研究に関わる学部に進む生徒もいれば、そうではない生徒もいると思います。最初は、宇宙の研究に関わる学部に進まない生徒の方が多いのではないかと思います。

大切なのは、このような非常に特色のある学習を通して、しかも地域のことだけではなく、枠を宇宙まで広げていくような課題学習や探究学習を通して、生徒がこれまでにない考え方や力を身につけていくことです。

結果として、本当に宇宙関連の仕事に進んでいくのか、そうではないのか、それは分かりませんが、このような今までと違う学習を通して、興味関心をかき立てて、これまでにない力を身に付けてほしいと思います。

先程の鈴木委員の話とも関連しているのですが、教員も勉強を積まないといけないと思っています。伴走型で、生徒と一緒に勉強していくような形でも良いと思いますので、浮き足立たずに、しっかりと生徒の力や興味関心を見ながら土台を作り、SPACEコースを作り上げてほしいと思います。

最初から突飛なことをしようとするとうまくいかないような気がしますので、地に足をつけた歩みをしてほしいと思います。よろしくお願いします。

(高橋委員)

多様性の時代ですので、一つの物事に固執しないで、臨機応変に、様々な変化にも対応できるような学びをしてほしいと思います。宇宙で使える保存食を作っ

ていけば、それが災害時に役に立つかもしれません。そのようなことも含めて、多様性に対応できるような、柔軟性のある生徒を育ててほしいです。そうすれば、必ず未来に光が見えてきます。よろしくお願いします。

(林委員)

2 ページ下段に「進化を続けるVUCA時代」という記述がありますが、この「VUCA時代」とはどのような意味ですか。

(小田校長 [国東高等学校])

不透明な時代、先行き不透明な時代という意味です。

(林委員)

それと、イギリスの高校との交流も深めるということですが、具体的にどのようなことを考えていますか。お互いに行き来することも考えているのか、オンライン上だけで交流するのか、教えてください。

(小田校長 [国東高等学校])

お互いに行き来して、相互交流ができるような形を考えています。いずれはイギリスを訪問し、またイギリスから招くという関係作りができればよいと思います。

(林委員)

今はどこまで進んでいますか。実際に協定を結ぶとか、姉妹校になるとか、様々な方法があると思うのですが、進捗状況を教えてください。

(小田校長 [国東高等学校])

大分県教育委員会にも尽力いただき、7月に本校教員と国東市長でイギリスを訪問して交流する予定になっています。令和6年度には姉妹校という形で関係を結びたいと思っていますところですが。

(岩武委員)

生徒は全国に対して公募するのですか。

(小田校長 [国東高等学校])

はい。

(岩武委員)

どのような方法で公募するのですか。

(小田校長 [国東高等学校])

福岡や東京、大阪などに出向いて広報を行います。また、地域みらい留学にも加盟し、6月に1回目の説明会を開催したところ、26名ほどの中学生が参加していました。今後もそのようなところで広報をしていきたいと思えます。

(高橋委員)

全国で地域みらい留学に参加している高校は、Facebook に広告が入りますね。

(鈴木委員)

Facebook 以外の SNS で広報はしていますか。

(小田校長 [国東高等学校])

TikTok に上げる予定です。

(鈴木委員)

Twitter と Instagram は活用していますか。

(小田校長 [国東高等学校])

Instagram はまだ活用していません。

(鈴木委員)

活用してください。中学生は SNS を見る人が多いので、通常のインターネットのホームページには、なかなか辿り着きません。Facebook も利用者は大人が多いのではないかと思います。TikTok や Twitter、Instagram といった SNS をぜひ活用してください。

③ 令和5年安全功労者内閣総理大臣表彰の受賞について

(2課 [教育改革・企画課、学校安全・安心支援課] 入室)

(岡本教育長)

それでは、報告第3号「令和5年安全功労者内閣総理大臣表彰の受賞について」学校安全・安心支援課長から説明をしてください。

(前田学校安全・安心支援課長)

令和5年安全功労者内閣総理大臣表彰の受賞について説明します。

受賞校は、大分県立臼杵支援学校です。学校安全分野での受賞は、全国で6校のみです。資料2ページの歴代受賞校一覧をご覧ください。東日本大震災を契機に、本県で毎年設定している防災教育モデル校から推薦しており、大分県学校保健会表彰受賞校の中から文部科学大臣表彰が選考され、さらにその中から最高位の内閣総理大臣表彰が選考されます。文部科学省によると、隔年という高い頻度

で内閣総理大臣表彰まで受賞している都道府県は、全国でも大分県と他に1県しかないとのことです。

本日は、臼杵支援学校の北山 昌之 教諭に、具体的な取組の報告をしていただきます。

(大分県立臼杵支援学校 北山 昌之 教諭)

臼杵支援学校の北山です。本校に異動して3年目になります。中学部2年の担任及び防災教育コーディネーターをしています。本日は主に令和元年度から令和4年度までの本校の取組についてまとめたものを発表します。

本校は、令和元年度に文部科学省の「学校安全総合支援事業」及び「大分県防災教育モデル実践事業」の研究指定を受け、地域の行政や関係機関等の協力を得ながら、これまで取組を進めてきました。

大規模災害時には、指定避難所になるとともに、臼杵津久見警察署、臼杵土木事務所、大分海上保安部の3つの機関の本部を設置する協定を締結しています。

学校は海拔34メートルの国道217号線沿いに位置しており、地理的に直接的な津波の被害は想定していません。また、大規模災害時には、臼杵港近くにある臼杵津久見警察署、臼杵土木事務所が津波被害を受ける可能性があるため、本校に本部を設置する協定を締結しています。

体育館の西側は、山が迫り、急傾斜地崩壊警戒区域に指定されています。被害状況によっては体育館が使用できないことも考えられています。

本校では、防災に必要な知識をもつ5人のヒーローに「ザ・ボウサイズ」と名前をつけ、児童生徒と一緒に活動に取り組んでいます。これは「災害」イコール「こわい」というイメージにならないよう、キャラクターを通して、児童生徒が防災に興味を持ち、楽しく学ぶことができるように設定しました。各ヒーローの特色として、シェイクアウト訓練等の指南役、非常用持ち出し袋の専門家、非常食担当、避難所生活担当、リーダーなどをアルファベットにかけて設定しています。各ヒーローは学期中に行われる全校集会にてステージや映像で登場し、シェイクアウト訓練、備蓄品、非常食の紹介など、児童生徒と一緒に活動しています。

シェイクアウト訓練は、「緊急地震速報発報端末」により、年間6回実施しています。日時などの事前の告知はせず、実施予定の前週に、訓練することのみ職員朝礼で伝えています。校内放送があると、児童生徒は一斉に机の下に入り頭を守って動かないなどの避難行動を行います。

全校一斉の授業として、給食前の時間から防災バッグの点検を行い、学校備蓄の非常食からヒートレスカレー、アルファ化米を調理する非常食体験を行っています。

各授業における防災教育に関しては、年間指導計画の単元に防災の視点を入れて作成しています。また、防災学習を「生活単元学習」や「総合的な学習（探究）の時間」、特別活動等に位置付けています。小学部の高学年は、校内の防災調べや学校周辺の防災マップの作成を行いました。高等部は、自宅周辺の危険箇所につ

いて、タブレットを活用して調べたり、段ボールベッドやパーティションなどの製作を行い、実際に体験しました。各授業や避難訓練の事後学習として、「ボウサイーズノート」を作り、プリントでまとめています。

12月の授業参観日は、保護者への引き渡し訓練を実施しています。校舎の入り口から受付までの経路や待機場所、受付での対応など、児童生徒の引き渡しまでの流れを確認しました。

地域との連携としては、令和元年に地区の婦人会の方を学校に招き、「ホットぼうし」を製作しました。これは、避難生活での、髪の毛の匂いや乱れなどが気になる方に重宝される防災用品となっており、当時の新聞にも取り上げられました。

備蓄品の整備については、白いヘルメットは教職員用、黄色のヘルメット、頭巾は児童生徒用としています。防災バッグは教職員用のものです。

防災頭巾は高等部3年生が卒業制作として作ったもので、普段は教室に配置してあります。また、防災ヘルメット・頭巾は、地震の時はもちろん、火災の避難訓練時にも、可能な児童生徒は着用するようにしています。

児童生徒の防災バッグに関しては、各家庭で児童生徒の実態に合わせて、食料や着替えなど、具体的な写真を載せた文書を基に準備してもらい、学校に搬入します。また、備蓄品一覧表を保護者に記入してもらい、コピーを連絡帳に綴じ、学校と家庭の双方で確認できるようにしています。児童生徒の防災バッグは校舎の3階にある備蓄庫でクラスごとにケースに入れて保管しています。毎年5月と10月に教職員と保護者に呼びかけ、賞味期限の確認や衣類の入れ替えを行っています。継続的な取組により、防災ヘルメット、防災頭巾、防災バッグの整備は毎年ほぼ完備できている状況です。また、ガスコンロや飲料水、ブルーシートなどの学校備蓄品も保管しています。

毎年7月を目安に、各関係機関の担当者が本校に集まり、連絡協議会を行っています。本部となる教室など校舎の配置や非常用電源設備、駐車場、臼杵市役所の災害備蓄品、ネットワーク環境などの確認を行っています。

毎年12月に実施している災害時合同本部設置訓練では、シェイクアウト訓練を実施したのち、グループに分かれ、校内の各ブースを順に体験する形式で実施しています。体育館は、防災グッズのブースとして、防災グッズの製作、段ボールベッド、簡易トイレを体験できるようにしています。

大分県海上保安部のブースでは、仕事内容を写真を見ながら聞いたり、実際に海上保安庁の潜水士の恰好をしたり、使用している装備を身につけたりします。臼杵津久見警察署は、本校の訓練の時刻に合わせて、移動や設置にかかる時間の計測や通信用アンテナの動作確認を行います。

臼杵土木事務所のブースでは、テレビ画面で仕事内容を視聴し、土石流の起こる原因などを、模型を使って体験することができるようにしています。

シェイクアウト訓練を定期的に行うことで、落ち着いて行動できるようになり、毎年意識が高まっていると感じられます。

年間指導計画の中で、授業に防災の視点を入れることにより、教職員の意識作りにつながっています。各関係機関とは、連絡協議会や合同本部設置訓練などの

継続した取組により、引継ぎも含めて防災対策の強化に向けた取組ができているといえます。

一方で、対応できる教職員が少ない時の避難体制や、介助が必要な場合の対応などが、課題として挙げられています。また、避難後の具体的な役割や計画、教育課程の位置付けの明確化など、マニュアルの見直しが必要です。引き渡し訓練では、現実的な状況での、受付の場所の検討や、来校する保護者への具体的な対応も課題としてあります。

本校の防災教育を含めた活動については、ホームページに掲載していますのでぜひご覧ください。

(岡本教育長)

ご質問、ご意見はありませんか。

(高橋委員)

臼杵支援学校は、変則的な校舎の造りになっていると思います。知的障がいや肢体不自由など、様々な障がいを抱えた児童・生徒がいると思いますが、避難訓練の際、校舎内の避難経路で戸惑うことはありませんか。

(大分県立臼杵支援学校 北山 昌之 教諭)

傾斜地に建っているため、高等部の2階の部分が1階とつながっているなど変則的な部分もありますが、年2回の火災訓練やシェイクアウト訓練など、様々な訓練を重ねることで、小学部1年生でも慣れていっています。

(高橋委員)

中には大きな音で怯む児童・生徒もいると思います。災害時のために、事前にもどのように対応するかを検討しておくとの良いのではないですか。

(林委員)

臼杵支援学校の素晴らしい取組を、周辺の学校や全県に広げることについて、どのようにお考えですか。

(前田学校安全・安心支援課長)

課題であると同時に、有効活用すべきだと考えています。毎年、大分県防災教育推進委員会を開き、大分大学の准教授や専門家の方々に、防災教育モデル事業等について審議していただいています。専門家の方からは、継続性や横の繋がり、臼杵支援学校のような防災教育モデル校の取組を、いかに県内各校へ広げることが課題であるとの意見をいただいています。このような委員会の場も活用していきたいと考えています。

(鈴木委員)

愛知県では、防災頭巾を年度当初に保護者に購入してもらい、教室の椅子の座面に敷いておき、避難訓練の際に被らせるなどして災害に備えている保育園や小学校がありました。大分県でも、災害用ヘルメットを学校に置いておくなど、災害発生時に必要となる物品等を準備しておく必要があるのではないですか。

引き渡し訓練でも課題があります。東日本大震災の際には、電話やメールが繋がらず連絡が取れない状況となりました。津波の危険や立地状況などにより、子どもを引き取りに行けない場合や、通信網が断たれる状況も想定した訓練が必要だと思います。訓練の際に防災無線を使用できるようにするなど、もっと学校と行政が協力できるとよいのではないですか。

実際に被災者の方の声を聞くことも有効だと思いますし、様々な状況を想定して取り組んでいただきたいと思います。

(岡本教育長)

それでは、先に非公開と決定しました議事を行います。その前に、公開の議事でその他、何かありますか。

(岡本教育長)

では、先に非公開と決定した議事を行いますので、傍聴人は退出してください。

【議案】

第1号議案 大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について

(2課〔教育改革・企画課、学校安全・安心支援課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、第1号議案「大分県立学校いじめ対策委員会委員の任命について」提案しますので、学校安全・安心支援課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

ただ今説明のありました議案について、審議を行います。
ご質問・ご意見はありませんか。

(質問・意見)

(岡本教育長)

第1号議案の承認についてお諮りします。
承認される委員は挙手をお願いします。

(採決) 全員挙手

(岡本教育長)

第1号議案について、提案のとおり承認します。

【協 議】

① 令和6年度海事職採用選考について

(2課〔教育改革・企画課、教育人事課〕入室)

(岡本教育長)

それでは、協議第1号「令和6年度海事職採用選考について」教育人事課長から説明をしてください。

(説明)

(岡本教育長)

今回の協議の結果を踏まえて、準備を進めていきたいと思えます。

(岡本教育長)

最後にその他、何かありますか。

それではこれで、令和5年第8回教育委員会会議を閉会します。

ありがとうございました。